2020年2月10日　九建日報
（天神・小倉／佐賀・久留米／長崎／熊本／大分／鹿児島／沖縄会場）

総合資格学院令和元年度

創業40年、更なる指導体制強化へ

総合資格学院　学院長　斧 隆司

1級建築士・2級建築士をはじめとする各試験に合格された皆さま、本当におめでとうございます。

皆さまの合格までの努力と、寸暇を惜しんで学習を続けられた姿勢に対して、心より敬意を表します。今後は資格を十二分に生かし、一層の活躍を期待しております。

また、講師および職員の皆さまの熱いご指導のお陰をもちまして、多くの合格者を送り出すことができました。厚く御礼を申し上げます。

昨年の1級建築士設計製図試験は、台風の影響で29道府県のみでの合格発表（12月19日時点）となりました。29道府県での1級建築士試験では、全合格者のうち、約6割が当学院受講生で、ストレート合格者も6割を超える実績となりました。2級建築士試験でも、全国合格者の４割以上を当学院受講生が占める結果となりました。建築士を目指すなら、総合資格学院を利用していただくことが最短ルートであるということを、今年も証明することができたと自負しております。

令和の時代を迎えても、日本一の合格実績を出し続けることはできました。しかし、私が目標に掲げる「1級のストレート合格者占有率8割以上」にはまだ到達していません。『令和の大改革』の号令の下、これまで以上の合格実績を達成すべく、指導体制のさらなる強化を致します。

当学院は今年で創業40年を迎えます。「資格者の育成を通じ、国づくり、都市づくりの根幹を成す建設業界に貢献する」という理念の下、講習システムと合格実績のさらなる進化を経営方針として、多くの資格者を出してまいりました。皆さん一人一人の合格が、建設業界の発展へとつながっていることを職員一同誇りに思い、喜びを感じております。

昨年、建築士法が改正され大学や高校の指定学科を卒業した方は、その年に建築士試験を受験できるようになりました。在学中からの学習スタートや、入社1年目での試験合格を仕事とされる企業の取り組みも学院として広げていきたいと考えています。

また、社会貢献事業として、建築を学ぶ学生の設計展への協賛や作品集の制作・出版、大学や研究室活動への支援なども継続的に行ってまいります。

今後とも皆さまの温かいご支援ご鞭撻を、総合資格学院と、学院の合格者に対して賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、皆さま方のより一層のご活躍とご健勝を祈念いたします。

天神校・小倉校

福岡県内では、令和元年度1級建築士設計製図試験の合格者のうち61.7%（133人中82人）、ストレート合格者も69.5%（59人中41人）が同学院の同年度受講生だった。また、九州・沖縄エリアにおいても、合格者269人のうち同学院同年度受講生が153人と約6割、学科・設計製図のストレート合格者も117人中72人と、同学院受講生が6割以上を占め、同学院の提供する学習システムの質の高さを証明する結果となった。

福岡では、福岡市中央区のソラリア西鉄ホテル福岡で祝賀会を開催。祝賀会には、天神校・小倉校の合格者など約230人が出席、（公社）福岡県建築士会の柴田成文副会長、（一社）福岡県建築士事務所協会の岩本茂美会長ら多数の団体および学校関係者がお祝いに駆け付けた。

小川九州本部長

三橋天神学校長

原田小倉学校長

主催者を代表して、同学院天神校の三橋浩史学校長は「合格された方々はこれからがスタートとなる。資格は取得して終わりではなく、取ってからの人生の方が長く重要だといわれている。資格取得までの道のりは一言では語れない日々であり、苦労も多かったと思う。困難に立ち向かう際は百折不撓の精神で、頑張った試験勉強の日々を思い出し乗り越えてほしい。学院としても全力でサポートするので、皆の活躍を祈念する」とあいさつ。

来賓を代表し、福岡県建築士会の柴田副会長が「今後は資格を持ったプロフェッショナルとして活動するが、それは誇らしさと同時に大きな責任を背負うことになる。法改正や新技術など学ぶことが多いが、法令を遵守し立派な建築士になってほしい」と祝辞を述べた。

講師祝辞では、同学院天神校の湯原洋史氏が「仕事や家庭との両立で、この日を迎えるまで険しい道のりだったと思う。試験は難しかったが、諦めずに取り組んだので今の笑顔がある。乗り越えなければいけない壁があれば、果敢に挑戦してもらいたい」とエールを送り、1級建築士に合格した釜我勇志さんは「父親が塗装工で幼い頃から建築が身近なもので、就職は建築以外考えていなかった。1級建築士を目指すに当たり、会社のサポートもあったが一番の支えは家族の存在だ。これから資格に甘んじることなく仕事に精進していく」などと抱負を語った。

続いて、乾杯の発声を福岡県建築士事務所協会の岩本会長が行い、歓談がスタート。合格者と講師らは合格に至るまでの苦労話などで盛り上がり、最後は三本締めで会を終了した。

佐賀校・久留米校

佐賀県内の令和元年度1級建築士設計製図試験では、合格者占有率81.3%（合格者16人中、同学院同年度受講生13人）を達成するなど、4年連続で県内トップの占有率となった。

また、学科・設計製図試験のストレート合格者占有率においては87.5%（ストレート合格者8人中、同学院同年度受講生7人）を達成している。

佐賀会場の祝賀会は鳥栖市のホテルビアントスで開かれ、佐賀校および久留米校の合格者や講師、同学院関係者など約50人が出席。（一社）佐賀県建築士会の坂口義孝副会長ら多数の団体および学校関係者が祝いに駆け付け、難関試験を突破した受講生たちの新たなスタートを祝った。

野副学校長

冒頭、主催者あいさつで野副幸一学校長は「1級建築士試験に関しては合格率が低く、例年厳しい試験となっている。その中で、県内の合格者の8割以上を学院の受講生で占めることができた。皆さんの日々の努力のたまものではあるが、講師や家族への感謝を忘れてはいけない」とし、これから取得した資格を生かしさまざまな現場で活躍してほしいとエールを送った。

続いて、（一社）佐賀県建築士会の坂口副会長が「建築士には高いモラルと洗練された技術力が求められる。誇りと自信を持ち、この業界で活躍されることを期待する」と祝辞を述べた。また、（一社）佐賀県建築士事務所協会の古賀光治常務理事と（一社）福岡県建築士事務所協会県南支部の山口雅克支部長がそれぞれ合格者へ祝福の言葉を贈った。

合格者を代表し、田中有紀氏（佐賀県立産業技術学院）は「学院の講師やスタッフ、クラスメート、家族のおかげで合格することができた。今後は建築を志す若い人たちに、これまでの経験で得た知識や技術、技能をはじめ、建築士に挑戦する大変さと合格した時の達成感を伝えたい」と抱負を語った。

長崎校

長崎県内の令和元年度1級建築士設計製図試験では、合格者占有率50.0%（合格者20人中、同学院同年度受講生10人）を達成するなど、5年連続で県内トップの占有率となった。

また、学科・設計製図試験のストレート合格者占有率においては58.3%（ストレート合格者12人中、同学院同年度受講生7人）を達成している。

長崎会場の祝賀会は長崎市のＡＮＡクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルで開かれ、長崎校の合格者や講師、同学院関係者など約70人が出席。（一社）長崎県建築士会の鉄川進会長ら多数の団体および学校関係者が祝いに駆け付け、新たな資格者の誕生を祝った。

深堀学校長

冒頭、主催者あいさつで深堀亮学校長は「本当に苦労し努力して合格を勝ち取った皆さまに敬意を表する。合格に向けて多大なご支援を下さった先生方、参加頂いた来賓の皆さまにも感謝申し上げたい」と謝意を表し、「現段階で元年度に1級建築士となられた方1,541人のうち同学院受講生が880人（57%）、県内では20人中10人を占めることができ、開校から5年連続で合格者占有率トップを達成した」と合格実績を報告。

その上で、「合格された皆さまは国家資格取得者としての責任を自覚し、十分に活躍していただきたい」とエールを送った。

続いて、来賓を代表し（一社）長崎県建築士会の鉄川会長が省エネ・バリアフリー・景観形成など、多岐多様な視点と知識を求められる建築士の仕事に触れ、「学び続け、たくさん良いものを造ってほしい」と激励した。

また、山田宏彰講師も同学院での指導について語り、「総合資格学院を選んだ皆さんの判断が正しかったことが証明された」と話し、お祝いの言葉を贈った。

合格者を代表し、江崎純一郎さんは「今回ストレートで合格できたのは一緒に勉強できる仲間がいたことが一番大きい。共に学び、互いに発破をかけ、鼓舞し合い頑張れたので、感謝している」と語った。

九州・沖縄合格祝賀会

熊本校

熊本会場の祝賀会は熊本市のホテルメルパルク熊本で開かれ、熊本校の合格者や講師、同学院関係者ら多数が出席。来賓として、(公社)熊本県建築士会の中尾憲征会長や同青年部会の田中章友会長、(一社)熊本県建築士事務所協会の小林至専務理事らが駆け付け、難関試験を見事に突破し晴れて有資格者となった合格者たちの門出を祝った。

冒頭、主催者を代表して福山裕昭学校長は「今回は1・2級建築士ともにかなり難易度の高い試験となった。この難関試験を無事合格された皆さまには、試験を突破したという自信と誇りを持って、より一層活躍していただきたい。学院としても全力でサポートしていく」などとあいさつ。

福山学校長

続いて、(公社)熊本県建築士会の中尾会長や(一社)熊本県建築士事務所協会の小林専務理事が合格者の労をねぎらうとともに、「資格者への信用・信頼が今後求められる時代となる。日々の努力を惜しまずに頑張ってもらいたい」とエールを送った。

これに対し、1級建築士に合格した梅津拓也さんは「いろいろな壁にぶつかりながらも、講師や学院スタッフの方々のサポートのおかげで何とか最後まで走り抜き、合格することができた。これからも壁にぶつかることもあると思うが、今回の経験を糧に頑張っていきたい」と抱負を述べた。

また、2級建築士に合格した島田恵豊さんは「今回、2級建築士を取得することができたが、次は1級建築士に挑戦し合格を目指す。高い目標に向かって突き進んでいきます」などと意気込みを語った。

大分校

大分県内の令和元年度1級建築士設計製図試験では、合格者占有率58.3％（合格者12人中、同学院同年度受講生7人）を達成するなど、合格者の約6割が同学院受講生だった。

また、学科・設計製図試験のストレート合格者占有率においては57.1％（ストレート合格者7人中、同学院同年度受講生4人）を達成している。

大分会場の祝賀会は大分市のホテル日航大分オアシスタワーで開かれ、大分校の合格者や講師、同学院関係者など約100人が出席。来賓として、(公社)大分県建築士会の渡邊豊基副会長ら多数の団体および学校関係者が駆け付け、新建築士たちの門出を祝った。

川添学校長

冒頭、主催者を代表し川添泰弘学校長は「資格を取ったら終わりではなく、資格・勉強で学んだ経験と知識、仲間との人脈を合わせこれから皆さんが活躍してくれることを願う。また、皆さんを支えた会社や家族などに感謝の気持ちを持ち、この合格をステップに業界で羽ばたいてほしい」などとあいさつ。

続いて、来賓を代表し大分県建築士会の渡邊副会長が「資格を持つということは責任を負うことでもある。これから勉強に励み、研さんを重ねて社会で通用する資格者になってもらいたい」などと祝辞を述べた。

続いて、同校で講師を務める近藤正一氏（日本文理大学教授）の乾杯の発声で歓談がスタート。合格者と講師らは合格に至るまでの苦労話しなどで盛り上がり、(一社)大分県設備設計事務所協会の矢野久会長の音頭で一丁締めを行い、会は終了した。

鹿児島校

鹿児島県内の令和元年度1級建築士設計製図試験では、合格者占有率50.0％（合格者28人中、同学院同年度受講生14人）を達成するなど、7年連続で県内トップの占有率となった。

また、学科・設計製図試験のストレート合格者占有率においては60.0％（ストレート合格者10人中、同学院同年度受講生6人）を達成している。

鹿児島会場の祝賀会は鹿児島市のホテルマイステイズ鹿児島天文館で開かれ、鹿児島校の合格者や講師、同学院関係者が出席。来賓として、(一社)日本設備設計事務所協会連合会の西田能行会長、鹿児島県建築士会青年部会の西野智昭部会長ら多数の団体および学校関係者が駆け付け、難関試験を突破した合格者たちの新たなスタートを祝った。

周郷学校長

冒頭、主催者あいさつで周郷晋輔学校長は建築士試験制度の変更に触れた上で、「令和元年という新時代の幕開けの年に合格という栄光を手に入れられた皆さん、勝ち取った資格と知識が今後の実務に幅広く役立ち、人生設計の柱となることを願っている」とエールを送った。

続いて、日本設備設計事務所協会連合会の西田会長や鹿児島県建築士会青年部会の西野部会長らが、合格者の労をねぎらうとともに、「皆さんの今後ますますの活躍を祈念する」と祝辞を寄せた。

これに対し、1級建築士に合格した篠田秀明さんは「今回の合格は決してゴールではなく、新たなスタートだと思う。これから経験を積み重ね、建設業界に貢献していきたい」などと抱負を語った。

沖縄校

沖縄県内の令和元年度1級建築士設計製図試験では、合格者占有率63.0％（合格者27人中、同学院同年度受講生17人）を達成するなど、5年連続で県内トップの占有率となった。

沖縄会場の祝賀会は那覇市の沖縄ハーバービューホテルで開かれ、沖縄校の合格者や講師、同学院関係者が出席。若き建築士たちの新たな門出を祝った。

江崎学校長

冒頭、主催者を代表し江崎功学校長は「今回の1・2級試験ではともに本校で学んだ受講生が初めて合格を勝ち取った。沖縄に学院が根付いてきたことを実感している。受講生、講師、スタッフが一丸となり挑戦し続けてきた証だ。今後も多くの有資格者を輩出していきたい」とあいさつ。

続いて、建築関係団体の代表者らがあいさつに立ち、「資格を生かし、社会に貢献することが支えてくれた方々への恩返しになる」などと祝辞を述べ、講話を行った山城東雄氏（東設計工房）は「高い志と強い精神力、みなぎる情熱、夢を持ってこれから歩んでほしい」と激励した。

これに対し、1級建築士に合格した新崎陣左さんは「1度建築の仕事を離れたが、同じように学院で学び直し合格を勝ち取った先輩の声に奮起した。逃げずに向き合えたのは、メンタルを含め支えてくれた講師・学院スタッフのおかげ。今後は有資格者だからこそ手掛けられる建築に挑戦したい」と語り、同じく1級建築士に合格した宮城美沙紀さんは「2級建築士に合格後、実務経験を積み1級建築士に挑んだ。想像以上に過酷だったが先生方や何より自分を信じることで合格を勝ち取れた。努力すれば成長できる。今後は後輩のサポートをしていきたい」などと意気込みを語った。